

# 耶 麻

令和5年度 第1号  
[通巻 134号]  
耶麻地区小学校長会  
令和5年6月26日

## 巻頭言



### 多忙化防止？多忙感削減？

耶麻地区小学校長会長 喜多方市立第一小学校長 杉原 智

今年度、耶麻地区小中学校連絡協議会会長の職を仰せつかり、4月から、何度挨拶をしたことだろう。こんなに多くの挨拶をすることになるとは、ついぞ予想せずにいました。「今日は、何の会での挨拶だったろうか？」と、考えてしまうほどです。また、挨拶文を作る度に、「何と文才のないことか！」と、自分自身が情けないと感じる日々を送っています。

さて、新型コロナウイルスが第2類から第5類へと移行したことにより、多くの行事が復活し、教職員の仕事量は、増加へと進んでいることは間違いのないところだと感じます。本校のことで言えば、創立150周年記念事業が予定されており、昨年度から、実行委員会が立ち上げられ、会議等が数多く行われ、多忙を極めているのが現状です。

そして、各校から、教職員が体調を崩し、病休に入ったといった情報が、毎週のように飛び込んできます。原因は、様々であろうが、教職員が疲れていることは、事実だと感じています。

しかしながら、教職に就く人とはと考えると、学生時代(特に、小中学生の頃)、クラスの中で、そこそこ優秀で、先生からはクラスを中心となって活躍することを期待されていた人が多いように思います。そして、その期待に応えようがんばる人だったのではと思います。つまり、教職に就いている人たちの多くは、幼い時から、大変なことでも頑張ってしまうことが身につけているように感じるので。

表題の「多忙化防止？多忙感削減？」ですが、

私が、会津自然の家に勤務していた時の所長さんの所員への言葉かけから感じたことです。当時、会津自然の家は、利用者の減少から存続が問われている時でした。利用者数48000人を目標に、日々、寸暇を惜しんで働いていました。朝早くから玄関掃除、宿泊棟のチェック、日中は受け入れ団体の対応、そして、合間を見てコース整備と草刈り、夜は、主催事業への参加者を増やすために、今まで利用した方への電話での勧誘と、まさしく多忙でした。時には、スーパーマーケット前で登りを立てピラ配りもしました。そして、主催事業の定員が埋まらずにいると、所長さんから「な～んだ、まだ、集まんねえのかい、おんつぁだっぺ！」と声をかけられるのです。でも、決して嫌みを感じる言葉ではなく、温かい言葉でした。そして、その言葉に奮起して、定員を満たすと、「何だ定員越えたのかい！いよいよ、おんつぁ卒業か？」と言われるのです。その言葉が、とても嬉しく疲れが吹っ飛んでしまいました。

私たち校長が、先生方の仕事を少なくすることに取り組むことは大切です。しかし、それだけでなく、先生方のがんばりを見取り励まし、正しく評価して伝えることで、先生方は達成感を感じ、多忙感を減らすことができるのではないかと考えます。仕事量削減には限界がありますが、多忙感削減には限界なしです。管理職である私たち校長が、多忙感削減に向けての言葉かけを心がけませんか？

## ～退職校長より～

## 今こそ教員文化の伝承を

前喜多方市立第二小学校長 田中 純



耶麻地区各地で令和5年度の運動会が行われました。ブロックごとの入れ替え制や参観する保護者の人数を制限して行う学校が多かった昨年度までとは違い、全校児童が一同に集って紅白に分かれ、応援に花を咲かせる運動会が戻ってきました。子どもたち、そして教職員が一体感を味わうことができる行事となったこと、本当にうれしく思いました。

令和5年3月31日をもって、定年退職となり、小学校教員としての務めの区切りとなりました。思い返してみますと、新卒で講師を務めた学校では、校長先生、教頭先生を始め多くの先生方から教師として、社会人として身に付けなければならないことを日々の勤務の中でたくさん教えていただきました。初任校でも、またその後の学校でも、日常の勤務の中で多くの先輩方から授業技術について、学級づくりのポイントについて、生徒指導や保護者への対応についてなど、多くの教員文化を指導、伝授していただきました。教員に求められる資質能力には、いつの時代になっても変わらない不易のもの、時代に求められる人材像を踏まえて教員に求められる資質能力があります。この教員文化は、教員として身に付けておくべき不易の資質能力であると思うのです。私が30代までの職場には、それぞれの年代の先輩がおり、若い教師も職場にいました。ですから、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）として日常的に職務を遂行していく中で多くのことを職場の先輩方から学ぶことができていました。しかし、今それが薄れてしまっています。それは、退職者数、採用者数のバランスの崩れによる教員組織の変容によるものが大きいと思われます。また、コロナ禍における学校経営・運営の制限も原因の一つと考えられます。令和5年3月、校長として最後の人事評価結果の伝達の時、ステージ4の先生方に、「今後先生にお願いしたいこと」と

して、「先生が、今までの教員生活においてこれは必ずやってほしい」という、言うなれば「教員文化」についてステージ1・2の先生方に折に触れて必ず伝えていただきたい旨をお願いしました。このことをお伝えしたときのステージ4の各先生方の深いうなずきがとてもうれしく、共感されていることに対して感動を覚えました。

前述にて、「令和5年3月31日をもって、定年退職となり小学校教員としての務めの区切り」と記しましたが、引き続き4月1日より初任者研修コーディネーターとして6校の初任者の研修を担当しています。熱心に研修に臨まれる先生方で、とてもやりがいがありうれしいのですが、私も学び直しを怠ることはできません。教育センターのすばらしいテキストをもとに、自分の体験を加えたり映像を交えたりしながら工夫して充実した研修になるよう努力しています。

6校の校長先生方には、特段のご配慮をいただいておりますことに感謝申し上げます。そして、6校の子どもたちとのふれあいも楽しみにしています・・・が、先日訪問した学校で、昼休みに1年生に「鬼ごっこしよう。」と言われやることになりました。ところが普通に楽しくやっていたつもりが、途中「休んでいいよ。」と氣遣われたのです。子どもは正直！なんでしょうね。さらに、さらに、数週にわたって遊んできたはずなのに、この1年生が昼休み終了時に言った言葉は・・・「おじちゃん、だれ？」でした！  
B o o o o o o o o o !

耶麻地区小学校長会の皆様には、大変お世話になりました。いつも温かい言葉かけをいただくとともに、調査等へのご協力は、とてもありがたかったです。どうぞ心身のご健康に留意されお過ごしください。

耶麻地区小学校長会のご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

P S . (体力を維持し、子どもたちに名前を覚えてもらえるよう頑張ります！)



## 転出校長より

## 耶麻校長会の思い出

前喜多方市立松山小学校長

現会津若松市立日新小学校長 岩渕 邦雄

令和2年度からの松山小勤務は、コロナ禍の激動の時代でした。運動会や修学旅行等の学校行事は、絶えず変更を余儀なくされ、令和2年4月末からの学校閉鎖後、喜多方市では7回の土曜授業も経験しました。その後も感染は続き、出席停止や学級閉鎖が当たり前。教職員は、感染防止に努めながら、学びを止めないよう、学習プリントの準備やタブレットの活用に迫られ、多忙な毎日でした。学校運営は混迷を深め、先が見えない不安の中、私が頼りにしたのは耶麻校長会でした。各校の状況について連絡を取り合い、相談に乗ってもらい、多くの助言を頂きました。そうすることで、自分の判断に迷いが消え、教職員への説明の際に説得力が増しました。

また、耶麻校長会は、校長自身の研修が充実しています。「オクヤピーナッツ」社長、西会津町の江添教育長や会津教育事務所長の講演は、どれも刺激的で有意義でした。令和2年11月の研修視察では、「飯館村立いたて希望の里学園」に行きました。小中一貫の義務教育学校として令和2年に開校したのです。大震災・原発事故からの再興に向け、行政と地域住民、教職員、保護者が、村の未来を託し、将来の担い手である子どもたちのために立てた学校です。10年先、20年先を見据えて地道に取り組む姿に、胸が熱くなりました。秋晴れで青く澄んだ空や2階まである本棚を見て、自分の悩みがとても小さく感じ、もっと子どもたちのためにやるべきことがあるのではと、気持ちが軽くなり、前向きなことを思い出します。

耶麻地区の校長先生方は、親しみやすく親切で、何でも教えてください。耶麻地区は、喜多方市、西会津町、北塩原村と広範囲ですが、地域性や人間性、文化や課題も、共通する部分が多いと思います。だから、同じ立場から共通の視点で、問題を共有し、共感しながら話し合いができるのだと思います。

3年間、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。



## 転出校長より

## 陰の力として頑張ります！

前喜多方市立上三宮小学校長

現喜多方市教育委員会学校教育課主幹兼管理主事 大槻 隆志

子どもの声が聞こえないデスクワークの日々を過ごすようになってもうすぐ3カ月になるようとしています。行政職を務められた後に学校現場に戻った先輩方が、「やっぱり現場はいいなあ」と話をされているのを耳にしたことがあります。が、こういう日々を過ごした後だからこそ、より一層、子どもたちと共に過ごせる学校での勤務が素敵に思えるのだろうかあと、そんなことを思いながら毎日の業務を進めております。

上三宮小学校で勤務させていただいた2年間、耶麻地区の校長先生方には大変お世話になりました。短い期間ではありましたが、統合か存続か揺れ動く状態から始まり、小規模特認校制度導入のための準備、そして制度を活用しての転入学児童受け入れとその後の特認校の運営と、大変充実した毎日を過ごすことができました。思うようにいかない部分もありましたが、制度利用の希望の状況、他地区から児童を受け入れた後の学校の様子などについて、校長会などの場で気にかけていただき、時にはアドバイスもいただきながら、なんとか特認校としての1年間を乗り切ることができました。

特色ある教育活動として様々なことに挑戦しましたが、特にプログラミング学習の充実については、外部講師のバックアップのもと、独自の考え方や取り組みでプログラミング的思考の育成に一定の成果をあげることができたと思っています。

子どもたちと過ごせる生活に戻れることを夢見ながら、学校現場を支える陰の力になれるよう、頑張りたいと思います。





## 転出校長より

## 豊かな自然に囲まれた学校

前北塩原村立裏磐梯小学校長

現二本松市立原瀬小学校長 佐藤 睦弘

裏磐梯小学校に勤務した2年間、耶麻地区校長会の広報部長も務めました。お役目柄、会報「耶麻」のバックナンバーや他地区の広報誌を見ることができました。今まで私自身がお世話になった校長先生方の名前を見つけては記事を読み、県北地区と耶麻地区は繋がりのある大切な場所であったことを再確認した時間でもありました。

現在私が勤務する二本松市立原瀬小学校は、学校の周りがほとんど水田であり、自然豊かな地域です。2年間お世話になった裏磐梯小学校も国立公園に隣接し、当然のように豊かな自然に囲まれておりました。裏磐梯小学校は今の時期、エゾハルゼミがにぎやかに鳴いていました。原瀬小学校はエゾハルゼミの声は聞こえず、その代わり水田に集まって鳴くカエル達の大合唱が聞こえます。自然豊かな環境で、やさしく素直な子ども達、熱心な先生方に囲まれ、異動後も心穏やかに学校経営ができることにとても感謝しております。



耶麻地区校長会にお世話になった2年間は、新任校長であったこともあり、戸惑うこともありましたが、その都度近隣の校長先生方に相談をさせて頂き、大過なく過ごすことができました。ただやはり残念だったことは、新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な活動や会合に制限が掛かってしまったことです。今、ようやく新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで本来の教育活動等ができるようになってきました。耶麻地区校長会で学んだことを、現在勤務している学校でも生かし、より良い学校経営をしていきたいと思い日々励んでいるところです。2年間本当にありがとうございました。

## 学校経営あれこれ

## 自己効力感の育成へ

喜多方市立慶徳小学校長 佐瀬 俊英

新宮熊野神社長床には、樹齢800年というとても立派な大銀杏がある。

本校の校庭にも、とても立派な銀杏の木がある。きっとこれまで多くの慶徳の子どもたちはこの銀杏の木に見守られながら『育てよう夢伸ばそう個性 伝統を受け継ぐ慶徳の子』というスローガンに向かってがんばってきたのだろう。

昨年の4月に本校に着任し、学校の実態把握を行ったところ、自己肯定感の低い児童が多いことに気づいた。本校のスローガンに向かわせるために、自己肯定感の育成に取り組んでいく必要性を職員会議で先生方に示した。先生方の協力を得て、取組はすぐに始まった。今できるようになりたいという目標を明確にさせ、できることを増やしていくことで自分自身に自信を持たせるのだ。担任の先生の協力もあるのだから、子どもたちは目標をクリアしようがんばる姿が見られるようになった。それが子どもたちの自信につながっていった。47人の子どもたちにとってできることを増やし、自分に自信をもつことができた1年となった。



今年も全職員で子どもたちにたくさんのできた喜びを味わわせ、一歩進んだ自己効力感の育成に取り組んでいこうと思う。自分の能力や可能性を信じる態度の育成だ。「自分にもできそうだ」と信じていることができるように、私も先生方と共に子どもたちを支援していこうと思う。

校庭の銀杏の木は、これからも自分に自信を持ち、夢を育て、個性を伸ばす慶徳の子どもたちを見守ってくれるだろう。

## 市町村・地区だより

西会津ならではの入学祝い  
「クマ鈴」と「西会津かるた」

西会津町立西会津小学校長 菅家由起子

## 話の小窓

## 2123年現役教員M氏の手記より

喜多方市立松山小学校長 穴澤 正志

今年も「会津域内で『クマ出没』」のニュースを聞く度に、昨年7月、学校裏の畑にクマが出没した(らしい)時のことを思い出します。その日は、授業参観で、コロナ感染拡大防止のため、3~5校時の分散型&オンライン配信をすることになっていました。朝から、近くでクマ除けの発砲音がするなど思っていたら、教育委員会からクマ出没の連絡がありました。毎日、見守り隊の方が登校に付き添ってくださっており、まずは、子どもたちが無事に登校できたことに胸をなでおろしました。それもつかの間、次から次へと電話、報道関係者の来校…。バタバタの1日でした。今日の朝も、子どもたちの安全を願う「クマ鈴」の音が鳴り響いていました。今後も、被害に遭うことなく登下校できますように…。

そして、西会津ならではの入学祝い「西会津かるた」ですが、これは2016年度に町教育委員会監修により



作製されたもので、西会津町の歴史や自然、文化を遊びながら学べるスーパーかるたです。一例を紹介します。「赤べこ」の読み札は、「伝統を守り受け継ぐ張り子べこ」ですが、その取り札の裏には「400年以上の伝統をもった～(中略)赤べこは、子どもの守り神として現在も日本中で愛されています。赤べこの全国一の生産を誇る会社は、西会津町にあります。」という情報が書かれています。

西会津小学校では、「西会津探検隊」と称して、総合的な学習の時間に西会津町の環境や文化、産業、福祉などを調べる活動をしています。「西会津かるた」での学びが、3年生以上の学習につながるように、今後も活用していきます

今は西暦2123年。私は教員Mである。現在の教育について雑感を記す。

かつてAIが策定した「新学校教育基本法」は、時間外労働、教員不足、教員の資質向上等の教育課題をすべて解決に導いた誠に美しい法律であった。その昔、校舎を「学び舎」と言ったそうだが、今では「学び舎」という概念は風化し子どもと教員とのアバター同士のつながりが唯一の集団であり、仮想空間こそが教室である。教科指導はというと、「AI教員」が担当。私の職務は、もっぱらモニターの監視。教員に楽をさせてはならぬという世論に押され、道徳等においては教師が担当するべきだという論争が、いく年も前から繰り返されている。

最近「AI作家」が書き下ろした「教育の歴史」という本に、1人の教師が30~40人を担任している写真が掲載されていた。これだけの子供がいれば、個人差の課題や人間関係のトラブルなど、山積だったことだろう。果たしてAIなくして対応などできたのだろうか?かつて日本教育界の課題とされてきた学力向上は、AIが導入され、個人、県、国の間の学力差がなくなり、今は誰も話題にすることはない。しかし、いじめ問題だけはその根を絶つことができず、いじめが発覚した場合は、該当者とWEB面談を行い、心拍数、表情筋の動きや声色等を「AI弁護士」がつぶさに分析し、これまでのビックデータに基づき、適切な判断を下してくれる。AI弁護士の判断は絶対であり、従わぬものはこの世には存在しない。いじめ問題に限らず、煩わしい問題はすべてAIが担い、私たちはそれに従えば間違いない。本当に合理的で楽な社会である。

今日も私はモニター越しに、子どものアバターが満面の笑顔でサッカーを楽しむ様子を見取っている。「幸せ指数」が全員平均値を超えている。これこそ教師のやりがいである。さあ、そろそろ「AI校長」から指示が来る頃だ。子どもの「幸せ指数」が下がらないようにだけ気をつけなければ…。

## 話の小窓

## 登って悔いなし(917.4m)の黒森山

喜多方市立山都小学校長 猪俣 秀昭

黒森山トレッキング(山開き)のチラシを散歩途中の塩川駅で見つけた。山都町のいいでのゆの先にあるこんもりとした山で、くじら山との愛称もある。山都小勤務が始まってこのチラシと出会うのも何かの縁と思い、面白そうなキャッチフレーズにも心ひかれ申し込んでみることにした。

当日は、時おり陽が差す薄曇りのさわやかな春のトレッキング日和。木々の芽吹きを感じながら、いいでのゆ付近を意気揚々とスタートしたが、トレッキングというネーミングに高をくくってしまっていたことが判明。登ってみると山頂付近は急勾配が続き、予想以上に激しく息が切れた。自分の体力の衰えをまざまざと見せつけられた。チラシにはよく見ると、登山中級者向けとあった。なるほどと思った。

しかし、新緑を間近に控えた萌黄色の山々は格別な景色でもある。途中、ワラビやタラノメ、コシアブラなど魅惑的なものもたくさん目にする。もちろんチラシの「山菜取り等は決して行わないでください」の注意書き通り行動。山頂付近ではきれいな花やクロモジ(香木)にも出会い気持ちも癒される。そして、歩き始めて3時間半。山頂に着くと、白く輝く飯豊山が間近にあった。のんびりと眺めながら、やはり山はいいものだなと悔いなしを確かめた。

先日ひめさゆり祭りの折に聞いたところによると、10月には再び熱塩加納側から黒森山へのトレッキングがあるらしい。是非、次はこちら側からも山頂を目指して歩いてみたいと思う(熊が行く手を阻むことがない事を祈りながら)。

子どもたちを前にいつも思うことだが、将来に渡り故郷のよさを誇れる子どもたちを育てていきたいと考えている。生涯住み続ける場所がたとえ地元故郷を離れたとしても、故郷に思いを馳せ続けることができる、そうした人づくりをしていきたい。そのためにも、その故郷のよさを自分自身の目や足で確かめながら学校経営にあたりたいと思う。

## 編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せ頂いた校長先生方、本当にありがとうございました。おかげさまで第134号を発行することができました。

編集作業を進める中で、原稿の中の一つ一つの言葉や文章から校長先生方の耶麻地区への思いや、教育に対する情熱を感じ、自分は耶麻地区の校長として何ができるのかについて、改めて考える機会とすることができました。

私自身、今年度より新任校長として、期待3割、不安7割の思いで耶麻地区に着任しました。しかしながら、耶麻地区の校長先生方の温かい雰囲気と、笑顔でアドバイスをくださる優しさに触れる中で、その不安も解消され、前向きになることができました。私も校長として、耶麻地区の校長先生方のように、温かい声かけや個に応じた適切なアドバイスを心がけ、本校の子どもたちや教職員が、自己肯定感をもち、笑顔があふれる学校経営を進めていきたいと思えます。

今年度も、3回の会報を発行して参ります。今後とも、校長先生方のご協力をお願いいたします。

令和5年度 耶麻地区小学校長会 広報部長  
北塩原村立裏磐梯小学校長 村松泰二郎